

# 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・ アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし/年2回決算型)

追加型投信/内外/資産複合

日経新聞掲載名：ハイク2無

2023年6月27日から2023年12月26日まで

第17期 決算日：2023年12月26日



## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

## 当期の状況

基準価額(期末)	10,000円
純資産総額(期末)	3,111百万円
騰落率(当期)	+3.5%
分配金合計(当期)	350円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

### ■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

### ■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976  
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

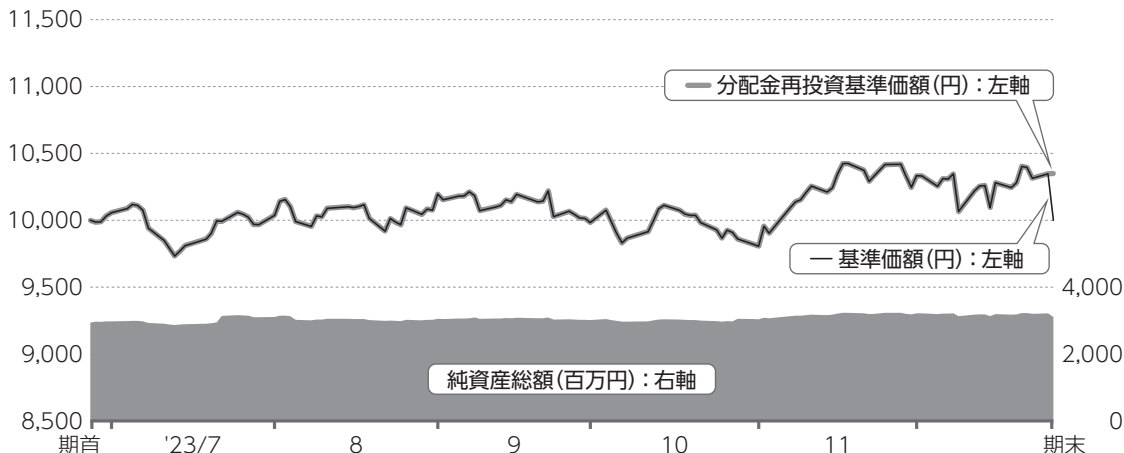
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

# 1 運用経過

基準価額等の推移について（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

## 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	10,000円
期末	10,000円 (既払分配金350円(税引前))
騰落率	+3.5% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

### 基準価額の主な変動要因（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産へ分散投資を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。  
なお、運用指図に関する権限の一部をブラックロック・ジャパン株式会社に委託しています。

#### 上昇要因

- 株式市場が上昇したこと
- 金利が低下（債券価格が上昇）したこと

1万口当たりの費用明細（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	104円	1.034%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) <b>期中の平均基準価額は10,094円です。</b>
（投信会社）	(58)	(0.577)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(44)	(0.440)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.016)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（株式）	(－)	(－)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
（株式）	(－)	(－)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（公社債）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(d) その他費用	1	0.007	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.002)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送入金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.003)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
（その他）	(0)	(0.001)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	105	1.041	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

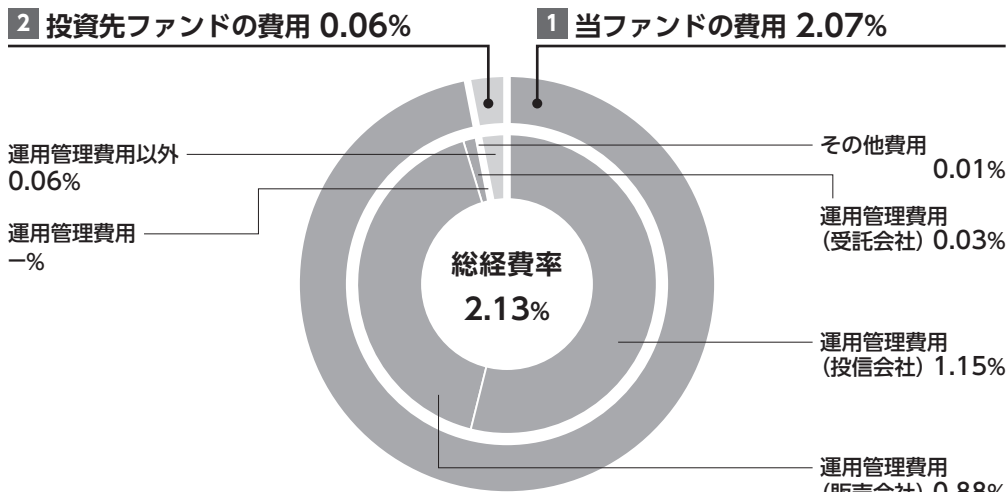
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



## 参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1 + 2)		2.13%
1	当ファンドの費用の比率	2.07%
2	投資先ファンドの運用管理費用の比率	-%
	投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.06%

※1の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※2の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。ただし、投資先ファンドでの運用管理費用は、当ファンドの運用委託報酬の中から負担しているため、開示すべき運用管理費用はありません。

※1と2の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.13%です。

最近5年間の基準価額等の推移について（2018年12月26日から2023年12月26日まで）

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年12月26日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018.12.26 決算日	2019.12.26 決算日	2020.12.28 決算日	2021.12.27 決算日	2022.12.26 決算日	2023.12.26 決算日
基準価額 (円)	8,941	10,000	10,000	10,000	9,767	10,000
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	235	1,149	1,511	0	1,501
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	14.5	11.5	15.3	-2.3	18.2
純資産総額 (百万円)	8,711	8,660	4,149	3,299	3,007	3,111

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

世界の株式市場、債券市場は上昇しました。為替市場では米ドルが円に対して概ね横ばいとなりました。

### 株式市場

世界の株式市場は、上昇しました。F R B（米連邦準備制度理事会）をはじめとする主要国・地域の中央銀行の利上げは終盤に近いと考えられたことや、経済ファンダメンタルズ（基礎的条件）が底堅く景気見通しが改善したことから、株式市場は上昇しました。

### 債券市場

世界の債券市場は、インフレが鈍化傾向にあることや、F R Bによる利上げが終盤に近づいていること等が好感され、堅調に推移しました。

社債や新興国債券、証券化商品市場全般については、スプレッド（国債に対する上乗せ

金利）は縮小となりました。

### 為替市場

期初と比較して期末の円相場は、米ドルに対して概ね横ばいとなりました。

F R Bが金融引き締めを継続していた中、日本銀行はイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）を調整したものの緩和的な金融緩和を継続する姿勢を示していました。そのため日米金利差が拡大し、米ドル・円は一時1米ドル150円台を突破しました。

しかしながら、期末にかけてはF R Bの利上げ終了が意識されて金利差は縮小し、米ドル・円は下落し、期初対比では概ね横ばいとなりました。

ポートフォリオについて（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

### 当ファンド

「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）」の組入れを高位に保ちました。

### ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）

市場環境の変化に事前予防的に対応する方針の下、株式、債券、現金などの各資産クラスの配分を機動的に変更しました。

株式については、期末にかけての市場の上昇、機動的なポジションの追加、保有していたオプションの価値上昇を通じて、配分を増加させました。米国では、フォワードP E R（予想株価収益率）に基づく、バリュエーション（投資価値評価）が魅力的な銘柄が多く残されていると考えられます。2024年後半にF R Bが金融緩和に転じる可能性があることも、株価の下支え要因になると考えられ、株式はオーバーウェイトとしています。

債券については配分を少し引き下げましたが、デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）については機動的にコントロールし期中には一時引き下げたものの、F R Bのスタンスがハト派（景気を重視する立場）的に転換する中で、期末にかけては利回りカーブの短中期ゾーンを中心に配分を拡大し、やや長期化しました。

商品ポートフォリオについては、リスク資産に対するヘッジ効果は薄れていると考えており、保有を低位で維持しました。

### ●株式

期初の62%程度から、米国経済は底堅さを維持していることに加え、インフレが鈍化し、中央銀行による利上げが終盤に近づいたと考えられる中で配分を高め、期末時点では64%程度としました。

### ●債券

期初の34%程度から、期末にかけて社債等の利益確定を行って配分を引き下げ、期末には32%程度としました。

### ●現金等

F R Bの利上げが終盤に近いと考える中、期初の3.2%から期末時点では3.3%と低位の保有比率を継続しました。

---

## マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。



## ベンチマークとの差異について（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## 分配金について（2023年6月27日から2023年12月26日まで）

（単位：円、1万口当たり、税引前）

項目	第17期
当期分配金	350
(対基準価額比率)	(3.38%)
当期の収益	347
当期の収益以外	2
翌期繰越分配対象額	443

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りいたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。  
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

## 2 今後の運用方針

### 当ファンド

引き続き「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)」の組入れを高位に保ちます。

### ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)

2024年については、景気は減速する可能性があるものの、上半期は比較的安定して推移すると見込まれます。ただし、マクロ経済

と市場のボラティリティが高まっている中で、先行き不透明感が強まり、資産間のリターンのはらつきも大きくなっており、ポートフォリオをアクティブに運用することが有効であると考えられ、資産配分を機動的に調整していきます。

こうした環境の中で、当ファンドでは株式への配分を増やし、ベンチマークに対してオーバーウェイトとしています。株式については、安定成長企業や優良企業を引き続き選好しており、これらの企業は景気減速局面でアウトパフォームする可能性があると考えています。米国のインフレ率が予想以上に鈍化

していることを受け、FRBの追加利上げの可能性が低下しているため、金融引き締めによる景気後退リスクや失業リスクも低下しています。このことは、金融資産の下支え要因になると考えられます。

債券については、デュレーションのアンダーウェイト幅を引き続き縮小しており、米国のイールドカーブの短中期ゾーンに注目しています。米長期国債については、供給増が懸念されるため、慎重な姿勢を維持しています。当ファンドは、社債、証券化資産、および新興国のソブリン債（政府や政府機関、国際機関などが発行する債券）への配分を維持

しており、これらが債券配分の大部分を占めています。また、リスク許容度を踏まえ、デュレーションを含む様々な手段でポートフォリオ・ヘッジを行っており、デリバティブ（金融派生商品）や金関連証券を保有するとともに、一定のキャッシュ比率と為替ポジションを維持しています。

---

### マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

## 3 お知らせ

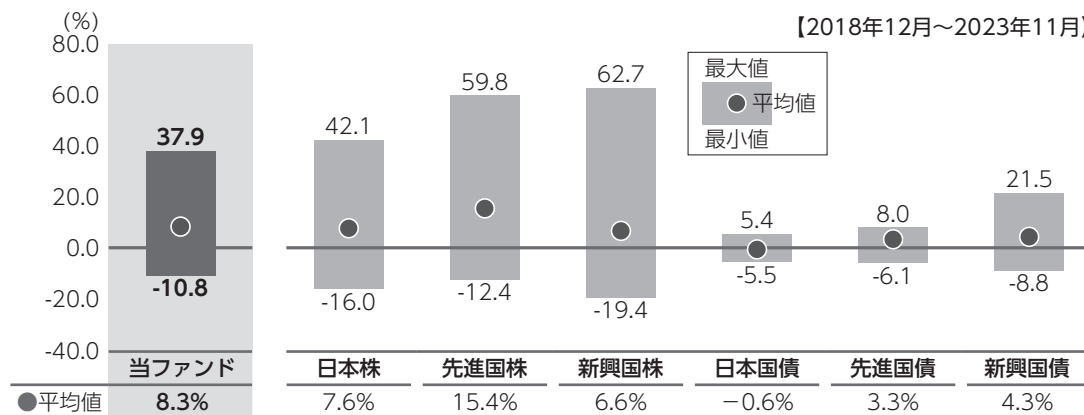
### 約款変更について

該当事項はございません。

## 4 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2015年9月25日から2024年6月26日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	<p>当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p><b>ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）</b> 世界各国の株式や債券など</p> <p><b>マネー・マーケット・マザーファンド</b> 円貨建ての短期公社債および短期金融商品</p>
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産への分散投資により信託財産の中長期的な成長を目指します。</li> <li>■実質的な運用は、マルチアセット運用に精通したブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シーが行います。</li> <li>■米ドル建ての組入れ外国投資信託証券に対し、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</li> </ul>
組入制限	■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>■年2回（原則として毎年6月および12月の26日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配を行います。</li> <li>■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。</li> <li>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</li> </ul> <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

## 5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

### 各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

## 6 当ファンドのデータ

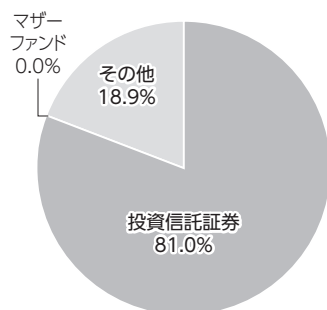
### 当ファンドの組入資産の内容 (2023年12月26日)

#### 組入れファンド等

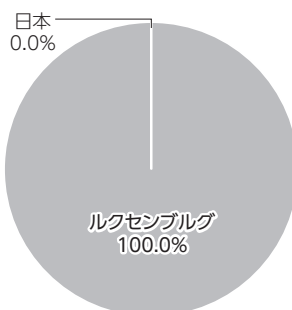
銘柄名	組入比率
ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)	81.0%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.0%
コールローン等、その他	18.9%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

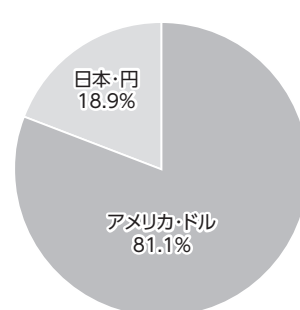
#### 資産別配分 (純資産総額比)



#### 国別配分 (ポートフォリオ比)



#### 通貨別配分 (純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

#### 純資産等

項目		第17期末 2023年12月26日
純資産総額	(円)	3,111,049,403
受益権総口数	(口)	3,110,925,238
1万口当たり基準価額	(円)	10,000

※当期における、追加設定元本額は419,050,395円、解約元本額は243,795,206円です。

## 組入上位ファンドの概要

### ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2) (2021年9月1日～2022年8月31日)

基準価額の推移以外は投資ファンドを含むシェアクラスで構成された「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」の情報で、ブラックロック・ジャパン株式会社から提供されたデータに基づき作成しています。

#### 基準価額(アメリカ・ドル建て)の推移



※分配金再投資ベース

#### 基準価額(円換算)の推移



※分配金再投資ベース

※アメリカ・ドル建ての基準価額を日本の対顧客電信売買相場の仲値で邦貨換算しています。

## 組入上位銘柄

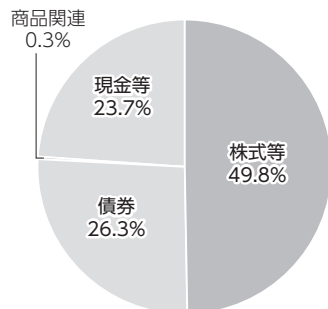
(基準日：2022年8月31日)

銘柄名	組入比率
1 TREASURY NOTE 2.75 04/30/2027	5.9%
2 TREASURY NOTE 3.25 08/31/2024	2.6%
3 MICROSOFT CORP	1.7%
4 APPLE INC	1.7%
5 ALPHABET INC CLASS C	1.3%
6 TREASURY (CPI) NOTE 0.5 04/15/2024	1.3%
7 AUSTRALIA (COMMONWEALTH OF) 1 11/21/2031	1.2%
8 AMAZON COM INC	1.1%
9 UMBS 30YR TBA(REG A)	1.0%
10 CONOCOPHILLIPS	0.9%

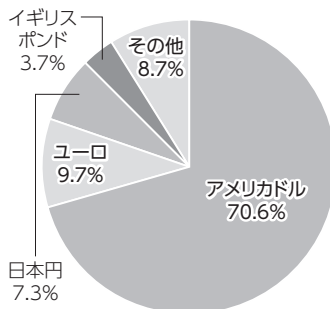
※比率は純資産総額に対する割合

※全銘柄数については、入手できるデータがないため記載していません。

### 資産別配分（純資産総額比）



### 通貨別配分（純資産総額比）



※国別配分については、入手できるデータがないため記載していません。

※基準日は2022年8月31日です。

### 1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。